

第42回全国児童生徒俳句大会実行委員長挨拶

実行委員長（玖珠町教育長）梶原 敏 明

▶御臨席の皆様への感謝

本日は、令和7年第42回全国児童生徒俳句大会の開会式に御臨席賜り、誠にありがとうございます。

ご多忙の中、遠方からお集まりいただいたご来賓の皆様、未来を担う子どもたち、熱心に御指導いただいている先生方、そして温かく見守る保護者の皆様、この記念すべき大会の開幕にご参加いただき、心より感謝申し上げます。

皆様の格別のご理解とご支援が、本大会を支える大きな力となっております。この場をお借りして、改めて厚く御礼申し上げます。

▶全国児童生徒俳句大会の意義

本大会は、子どもたちの豊かな感性と創造性を育み、俳句という日本の伝統文化への理解を深めることを目的として、毎年玖珠町で開催されております。短い言葉の中に無限の世界を表現する俳句は、子どもたちの感受性を磨き、日々の生活の中で見過ごしてしまいがちな小さな発見や感動を捉える力を養います。

この大会を通じて、子どもたちが言葉の持つ力、表現する喜びを感じ、豊かな心を育んでくれることを願っております。また、本大会が、豊かな自然と童話の里として知られる玖珠町の文化振興にも寄与するものと信じております。

▶玖珠町と俳句の歴史・文化

玖珠町は、「日本のアンデルセン」と称された口演童話家、久留島武彦先生の故郷であり、「童話の里」として全国に知られています。久留島先生は、子どもたちに楽しい物語を通して生きる上で大切な教えを伝え、その精神は今もこの町に深く息づいています。先生の「継続は力なり」という言葉は、本大会が昭和59年から毎年開催され、40年以上の歴史を重ねてきたことにも表れていると言えるでしょう。今回の第42回大会では、全国そして海外からも多くの応募があり、累計投句数は50万句を超えるという素晴らしい成果を収めました。これは、俳句を通して子どもたちの感性を育むという本大会の意義が、広く社会に認められている証であると強く感じています。

玖珠町における俳句の歴史は、本大会の開催以前にも、人々の生活の中に息づいていたと考えられます。これまでも古くから「玖珠俳句会」の活動が記録されており、現在も俳句を楽しんでおり、玖珠町は古くから言葉を大切にする文化が育まれてきた土壌があり、それが久留島先生のような偉大な童話家を輩出し、全国児童生徒俳句大会という形で結実したと言えるのではないのでしょうか。

童話と俳句は、一見異なる表現形式に見えますが、子どもたちの豊かな想像力を刺激し、短い言葉で深い情景や感情を描き出すという点で共通しています。童話が物語を通して子どもたちの心に様々な感情や教訓を伝えるように、俳句は、五七五の短い音の中に、自然の美しさや日常の何気ない瞬間を凝縮し、読む人の心に響かせます。玖珠町が「童話の里」として、子どもたちの夢を育む場所であると同時に、全国の子どもたちが俳句を通して感性を磨くこの大会の開催地であることは、決して偶然ではないでしょう。毎年5月5日には日本童話祭が盛大に開催され、本大会もその重要な一環として、全国の子どもたちの俳句への情熱を育んでいます。

➤全国児童生徒俳句大会について

本大会は、回を重ねるごとに参加者数、応募句数ともに増加し、全国的な規模の大会へと発展してまいりました。過去の大会では、子どもたちの豊かな感性から生まれた数々の素晴らしい俳句が、多くの人々の心を捉えてきました。

記念の第40回大会に出版した俳句の手引書には、第20回大会から第40回大会までの入賞句が紹介されており、子どもたちの表現力の高さに感銘を受けます。これらの作品に触れることで、俳句の持つ魅力、子どもたちの無限の可能性を感じていただけることでしょう。

本大会では、久留島武彦賞をはじめ、朗人賞、紘文賞、桂一賞など、様々な賞が設けられており、子どもたちの努力と才能を称えるとともに、更なる創作意欲の向上を促しています。

これらの賞は、単に優秀な作品を選出するだけでなく、子どもたちが俳句を通して得た学びや経験を肯定し、自信を持って未来へと羽ばたくための励ましとなることを願っています。

俳句への参加は、子どもたちの成長にとってかけがえのない経験となります。短い言葉で情景や感情を表現するためには、物事を注意深く観察する力、豊かな

想像力、そして言葉を選ぶ力が不可欠です。五七五という限られた音数の中で、いかに自分の思いを伝えるかという制約は、子どもたちの創造性を刺激し、言葉に対する意識を高めます。

また、俳句は、自然や身の回りの出来事に目を向け、心を動かすきっかけを与えてくれます。俳句を通して、子どもたちは世界をより深く理解し、豊かな感性を育むことができるのです。

▶子どもたちへのメッセージ

全国から集まってくれた皆さん、ようこそ玖珠町へ！

皆さんが心を込めて作った俳句を読ませていただき、実行委員一同、大変感動させていただきました。俳句は、皆さんのキラキラと輝く個性や、周りの世界に対する面白い発見を表現する素敵な方法です。難しく考える必要はありません。皆さんが感じたこと、見たこと、心に残ったことを、五七五のリズムに乗せて自由に表現してみてください。

玖珠町には、皆さんの想像力を掻き立てる美しい自然がたくさんあります。空に向かってそびえる山々、きらきらと輝く川の流れ、そして「童話の里」ならではの楽しい雰囲気。この町で感じたこと、気が付いたことを、俳句の中にちりばめてみてください。もしかしたら、皆さんの俳句が、玖珠町の新しい魅力を教えてくれるかもしれません。

俳句には、正しい書き方や決まったテーマはありません。大切なのは、皆さんが自分の言葉で、自分だけの世界を表現することです。友達の俳句を読んで「面白いな」「こんな風に表現できるんだ」と感じたり、自分の俳句を誰かに読んでもらって「素敵だね」と言われたりすることで、新しい発見や喜びが生まれるはずです。今後も俳句を作ることを楽しみながら、たくさんのことを学び、感じてください。皆さんの自由な発想と、豊かな感性が生み出す素晴らしい俳句に出会えることを期待しています。

➤関係者への感謝と激励

本大会の開催にあたり、多大なる御尽力を賜り、厳正なる選句をしていただきました大会選者の牧野桂一先生、秋篠光広先生、そして、本大会を共催いただいております玖珠町、全国児童生徒俳句大会実行委員会の皆様、わらべの館のスタッフの皆様、玖珠町教育委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

また、日頃より子どもたちの俳句活動に御理解と御支援を賜っております先生方、そして、子どもたちの才能を温かく育ていらっしゃる保護者の皆様に、深く敬意を表します。本大会の開催に御支援いただきました後援団体、協賛企業の皆様にも、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。皆様の御支援なくして、この素晴らしい大会を開催することはできませんでした。

参加される子どもたちには、今日一日、それぞれの感性を大切に、俳句の世界を存分に楽しんでほしいと願っています。皆さんのきらきらと輝く才能が、この玖珠町の地で花開くことを楽しみにしています。

➤最後に

本日の全国児童生徒俳句大会が、参加された全ての子どもたちにとって、実り多き、そして記憶に残ることとなることを心より願っております。この大会が子どもたちの俳句への興味をさらに深め、豊かな感性を育む一助となることを信じています。そして、いつまでも俳句を愛し、折に触れてその感動を言葉で表現してくれることを願っています。今後の子どもたちの俳句活動の発展を心より応援申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。